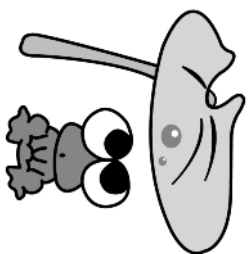


盂蘭盆について



餓鬼界に堕ちると、いつも喉が渴き空腹です。辺りには食物はありません。目連様はいたたまれず、食べ物に施そうとしました。飢えた母親が喜んで食物を口に運ぼうとすると、何故かそれらはボツと音をたて燃えてしまい食べることができません。いかに神通第一の目連様の力も及ばず、母親の苦しみを救うことは出来ませんでした。

なんとか母親を救おうと、目連様はお釈迦様に教えを請いました。お釈迦様は次のように説きま



す。熱帯インドの当時のこと、雨期には道が川のようになり、僧侶は

布教活動や托鉢が出来ません。お寺に籠もり安居という修行をしていました。その修行を終えるのは旧暦七月十五日（八月中旬頃）です。その日に、修行を終えて清浄になった僧侶に百味の飲食を供養しなさいとお釈迦様は目連様に仰いました。

お釈迦様の言われる通りにされると、微笑みを浮かべながら天上界へ昇って行かれる母親の姿を目連様は神通力で見ることが出来ました。これが盂蘭盆の法要の起源となるお話です。

● 先祖をお迎える

さて、盂蘭盆には御先祖様や故人が帰ってくるといわれますが、どういうことでしょうか。中元・歳暮の中元の日ですが、これは旧暦の七月十五日



です。中国に於いて中元は畑作の収穫祭の日であります。また、俗に鬼節といい、死者がこの世にもどって来る日だとされています。たまたま、盂蘭盆と中元の日が同じ日なので二つが習合し

たのです。お盆には御先祖が帰って来るという宗教行事はここに起源があります。

● 七月と八月のお盆

本来は旧暦の七月十五日が盂蘭盆の日であり、先祖をお迎える中元の日であります。しかし実際は、一部の地方を除き月遅れの八月十五日頃に行うのが一般的です。これは旧暦に近付けるためや、ハウス栽培のない時代に七月（太陽暦）ではお供えの作物がまだ出来ないために一ヶ月遅らせ

● 盂蘭盆の功德

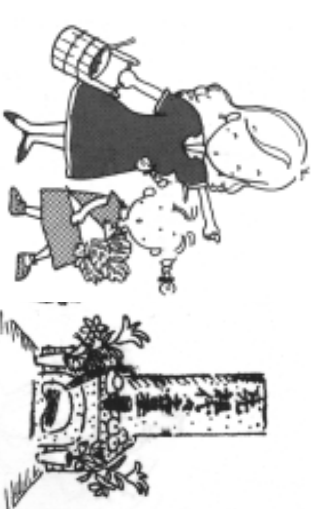
さて、先述の『仏説盂蘭盆経』には、未来においても死者のために盂蘭盆の供養を捧げれば、現在及び過去七世の先祖にその功德が及び、在世の父母は寿命長久の功德が及ぶと説かれています。

これらが、お盆の意味と功德です。御理解戴きましたでしょうか。

● 盂蘭盆と施餓鬼法要

さて、盂蘭盆とともに修行されることが多い施餓鬼法要ですが、このことについても触れておきます。

盂蘭盆法要は『仏説盂蘭盆経』にある目連尊者が母を救う話に起因しますが、施餓鬼法要は『仏



説救拔焰口餓鬼陀羅尼神咒經』によります。こちらは、十大弟子の阿難尊者が施餓鬼法要によって口から炎を吹き出す焰口餓鬼を救ったことが説かれます。『仏説救拔焰口餓鬼陀羅尼神咒經』によりますと、施餓鬼供養をすると餓鬼を供養して救うだけでなく、供養した者に福得・長寿の功德が得られるとあります。



うちの先祖は餓鬼界に落ちているはずがないから餓鬼を施す施餓鬼供養は必要ないという方がおられるかもしれませんが、それでは身内の供養のことばかりで仏教的ではありません。『仏説盂蘭盆経』では目連尊者が母の供養のことばかり考えて、かえって供養が届かなかったのです。

願以此功德 普及於一切 我等与衆生 皆共成仏道

この経文に聞き覚えはないでしょうか。これは『妙法蓮華經化城喻品第七』の経文で、書き下せば「願わくは此の功德を以て普く一切に及ぼし我等と衆生と 皆共に仏道を成ぜん」となります。これは大乘仏教の象徴的な経文として宗派を超えて読まれるものです。身内だけでなく、普く一切に法華経・お題目の功德を及ぼすことで、御先祖と生きとし生けるものと自分が仏となり救済されるのです。盂蘭盆や施餓鬼は餓鬼界に堕ちたものを救う善根功德が、巡り巡って、はからずも自らの先祖や我々自身を救済する素晴らしい功德となるのです。この盂蘭盆・施餓鬼は飛鳥時代の太古から日本人に深く浸透している素晴らしい行事です。